

聖霊降臨後第九の主日

二級祝日 緑

ミサ聖祭

本日の〈密誦〉では、すべてのミサにおいてわれらの救いが新にされていることを記憶させる。神祕的祕蹟的に新にされるこの事実は祈りの家なる聖堂で行われる。

〈聖福音〉は、主イエズスが、いかに熱心にこの聖所を守り給うかを教える。聖堂においては、常に信心深いうやうやしい態度を持し、世俗的なわずらいを遠ざける潜心を有しなければならぬ。

入祭文（詩篇、53ノ6—7）

Ecce Deus áduvat me, et
Dóminus suscéptor est ánimæ
meæ: avérte mala inimícis meis,
et in veritáte tua dispérde illos,
protéctor meus, Dómine.

Ps. ibid., 3. Deus, in nómine tuo
salvum me fac: et in virtúte tua
líbera me.

V. Glória Patri.

見よ、神は私を助け、主は、私の
靈魂のより所となり給うた。私
をしいたげる者に、悪をかえし給
え。私の守り手にて在す主よ、御
言葉にしたがって仇を亡し給え。

＊

（詩篇、53ノ3）神よ、御名
によって私を救い給え、御力によ
って私を解き放ち給え。

V 願わくは、聖父と……（栄
誦）。

見よ、神は私を助け……（＊ま
でくりかえす）。

栄光誦

集祷文

Páteant aures misericórdiæ
tuæ, Dómine, précibus
supplicántium: et, ut
peténtibus desideráta
concédas; fac eos quæ tibi sunt
plácita, postuláre. Per
Dóminum.

主よ、いつくしみの御耳を、こ
い願い奉る者の祈りにかたむけ
給え。かれらが、主のよみし給う
ことをこい願い、そしてその願い
をききとどけ給わんことを。神と
して……。

書簡 使徒聖パウロの、コリント人への書簡の朗読

(前書、10ノ6—13)

Fatres: Non simus concupiscéntes malórum, sicut et illi concupiérunt. Neque idolólatræ efficiámini, sicut quidam ex ipsis: quemádmódum scriptum est: Sedit pópulus manducáre et bíbere, et surrexérunt lúdere. Neque fornicémur, sicut quidam ex ipsis fornicáti sunt, et cecidérunt una die vigínti tria mília. Neque tentémus Christum, sicut quidam eórum tentavérunt, et a serpéntibus periérunt. Neque murmuravéritis, sicut quidam eórum murmuravérunt, et periérunt ab exterminatóre. Hæc autem ómnia in figúra contingébant illis: scripta sunt autem ad correptionem nostram, in quos fines sæculórum devenérunt. Itaque qui se exístimat stare, vídeat ne cadat. Tentátio vos non apprehéndat, nisi humana: fidélis autem Deus est, qui non patiétur vos tentári supra id quod potéstis, sed fáciét étiam cum tentatióne provéntum, ut póssitis sustinére.

兄弟たちよ、これらのことは、我々の前兆（ぜんちょう）として起ったのであって、彼らがむさぼったように我々が悪をむさぼることのないためである。あなたたちは彼らのうちのある人のような偶像崇拝者になるな。「人民は坐（ざ）して飲食し、立ってたわむれた」と録（かきしる）されている。我々は、彼らのうちのある人のように姦淫してはならない。彼らは、一日に二万三千人死んだのである。我々は、彼らのうちのある人がしたように、主をころみてはならない。彼らは蛇に亡されたのである。あなたたちは、彼らのうちのある人のように不平をいうな。彼らは撲滅者（ぼくめつしゃ）によって亡ぼされた。彼らに起ったこれらの事は前兆（ぜんちょう）であって、録（かきしる）されたのは、時の末に遭（あ）った我々への誠（いまし）めのためであった。したがって、立っていると自らほこる人は、倒れないように注意せよ。あなたたちは、人の力を超えるころみには遭わなかった。神は真実であるから、あなたたちの力以上のころみには遭わせ給わないであろう。あなたたちがころみにたえ、それにうちかつ方法を、ともにそなえ給うであろう。

昇階誦（詩篇 8 ノ 2）

Dómine Dóminus noster, quam admirábile est nomen tuum in univérsa terra! V. Quóniam eleváta est magnificéntia tua super coelos.

主よ、わが主よ、御名（みな）は全地において感嘆すべきものである。

V 主の光栄は、天の上まで輝きわたる。

Allelúja, allelúja. V. Ps. 58, 2. Eripe me de inimícis meis, Deus meus: et ab insurgéntibus in me líbera me. Allelúja.

アレルヤ、アレルヤ、V （詩篇、58 ノ 2）わが神よ、私を敵の手より救い出し、私にさからって立つ人々より解き放ち給え、アレルヤ。

聖福音 ルカによる聖福音の続誦（19 ノ 41—47）

In illo témpore: Cum appropinquáret Jesus Jerúsalem, videns civitátem, flevit super illam, dicens: Quia si cognovísses et tu, et quidem in hac die tua, quæ ad pacem tibi, nunc autem abscóndita sunt ab óculis tuis. Quia vénient dies in te: et circúmdabunt te inimíci tui vallo, et circúmdabunt te: et coangustábunt te úndique: et ad terram prostérnent te, et filios tuos, qui in te sunt, et non relínquent in te lápidem super lápidem: eo quod non cognóveris tempus visitatiónis tuæ. Et ingressus in templum, coepit ejícere vendéntes in illo, et eméntes, dicens illis:

そのとき、イエズスは、エルザレムに近づき給うと、都（まち）をながめ、そのために泣いて、いい給うた、「ああ、なんじ、なんじがもしこの日に、平和をもたらすべきものを知ったならば。しかし今、それはなんじの目にかくされている。ある日が来て、敵がなんじのまわりに、壘をきずき、なんじを取り囲み、四方からせめ、なんじとその内にある子らとを地にたおし、石の上に一つの石も残さないであろう。それはなんじが、なんじへの訪れの時を知らなかったからである。」そして、神殿に入り、あきない人を追い出しはじめ、彼らにいい給うた、「我が家は祈りの家である。」と録

Scriptum est: Quia domus mea
domus orati6nis est. Vos autem
fecistis illam spel6ncam
latr6num. Et erat docens
cot6die in templo.

(しる)されている、それになん
じらは、これを盗賊の巣にした。」
イエズスは、日々神殿で教え給う
た。

信経

奉献文 (詩篇、18ノ9、10、11、12)

Justitiæ D6mini rectæ,
lætificantes corda, et judicia
ejus dulci6ra super mel et
favum: nam et servus tuus
cust6dit ea.

主の審きは正しく心を喜ばせ
る。その掟は蜜よりも、蜂の巣の
したたりよりも甘い。主の下僕
(しもべ) はこれを守る。

密誦

Concede nobis, quæsumus,
D6mine, hæc digne frequentare
mystéria: quia, qu6ties hujus
h6stiæ commemorati6
celebratur, opus nostræ
redempti6nis exercetur. Per
D6minum.

主よ、願わくは、われらに、ふ
さわしく、しばしばこの祕蹟を受
けさせ給え。このいけにえがくり
返される度毎に、われらのあがな
いの御業が果されるのである。神
として……。

序誦 三位一体の序誦

聖体拝領誦 (ヨハネ、6ノ57)

Qui manducat meam carnem et
bibit meum sanguinem, in me
manet et ego in eo, dicit
D6minus.

私の肉を食い、私の血をのむ者
は、私におり、私もまた彼にいる、
と主はいい給う。

聖体拝領後の祈

Tui nobis, quæsumus, D6mine,
comm6nio sacramenti, et
purificati6nem c6nferat, et
tribuat unitatem. Per
D6minum.

主よ、願わくは、主の聖なる奥
義の拝領によって、われらが浄め
られ、われらの間に一致が生れん
ことを、神として……。